

全国スポーツ少年団ホッケー交流大会における 相手をたたえるセレモニーの実施要項について

23年度富山大会から行われた「相手をたたえるセレモニー」は、競技役員や審判はもちろん、参加チームの指導者や保護者の皆様にも理解していただき、大きな成果をあげております。試合で見せたプレイのよさを互いに認め合う場合は、子どもたちにとっても大人たちにとっても、相互評価や他者評価を行うよい場となっており、子どもたちは、ホッケー競技そのものを通じた交流をさらに深め、相手チームや運営者を敬う心を培うとともに、ホッケー競技の素晴らしさを味わい、今後のレベルアップに向けた具体的な目標をもつこともできたことでしょう。

そこで、26年度島根大会にもおいても、「相手をたたえるセレモニー」を実施します。競技役員や審判、参加チームの指導者や保護者の皆様には、さらなるご理解とご協力を賜り、この大会に参加した子ども一人一人が、真の意味でのスポーツの楽しさや素晴らしさを味わうことができるように格別なご配慮をお願いいたします。

1 目的

- ① 試合を通して互いのプレイに敬意を払い、交流を深める。
- ② 競技役員や審判、相手チームの指導者や主将から、試合中のプレイについて評価を受けることで技術的・精神的なレベルアップにつなげる。

2 実施方法

(1) 実施日平成26年8月9日（土）予選リーグ

(2) セレモニーの流れ

- ① 試合終了後、選手はコート中央に整列しあいさつを行う。
- ② 選手は、「選手席」へ戻り荷物を取って移動する。
※次の試合の選手のために、チームの荷物も「選手席」の外へ出す。
- ③ 監督と選手は、競技役員の指示に従い、各コート指定された場所に移動する。
- ④ 競技役員の進行により「相手をたたえるセレモニー」を行う。
※給水は適宜行う。
- ⑤ セレモニー終了後は、速やかに移動する。

(3) 進行・言葉かけの例※ 別紙参照

3 その他

- ・監督は、試合前まで「相手をたたえるセレモニー」の目的や実施方法について、選手はもちろん、保護者にも説明し、より意義深い振り返りの場となるように周知を図る。特に選手には、具体的な観点を与えて相手のチームのよさを観ることができるように事前に指導しておく。事前指導が徹底していれば、選手（プレイヤーや応援者）は最高のパフォーマンスを見せるとともにフェアプレイに心がけると考えられる。
- ・セレモニーが速やかに行えるように、試合終了後素早くマッチシートにサインする。また選手保護者は試合用具や荷物を移動させベンチを開ける。
- ・選手は水分を摂り、監督とともに各コート指定された場所に移動する。
- ・セレモニーの時間は1～2分程度とし、短い時間で効率的に進める。
- ・競技役員や審判は、プレイや行動・態度のよさを褒めるとともに、技術的・精神的なレベルアップにつながるようなアドバイスや今後への期待感を両チームに伝える。